

CSR REPORT

2019



CHUETSU PULP & PAPER Co.,Ltd.

Chuetsu Pulp & Paper stands on a global viewpoint, and tries hard on the basis of "environment-friendly corporate activity" aiming at global environmental protection and realization of the affluent society in which sustainable development is possible.

中越パルプ工業株式会社
社会環境報告書

特集
地域と共につくる
「竹紙」から考える環境問題
—対談・寺岡行雄氏—

中越パルプ工業株式会社

この冊子に使用している用紙の売上の一部は、
生物多様性を保全する活動に寄付されています。
また、この紙を使用することで国産材の
有効活用が推進されます。



CRMペーパー
里山物語

表紙・本文 / 里山物語 雷鳥マットコートZ 104.7g/m² 使用

この印刷物は環境にやさしい
Non-VOCのハイブリッド
UVインクを使用しています。



中越パルプ工業グループは、企業戦略を 確実に実施し、永続的な発展を目指しています。

私たちは、社会に貢献し信頼される企業を目指し、行動力と対話に重点を置いた取り組みを展開しています。地域に根差した企業として、地産地消を推進し、地域の方々とともに力を合わせ、地域の社会問題解決に取り組んでいます。本業を通じて、社員の一人ひとりが生物多様性保全・二酸化炭素発生抑制・廃棄物の発生抑制を意識した生産活動を行っています。

TOP MESSAGE P.4-5

加藤 明美 / 中越パルプ工業株式会社 代表取締役社長

● 特集

Discussion: Environmental Issues Taking
Bamboo Paper into Account

対談 「竹紙」から考える環境問題 P.6-9

寺岡 行雄 / 鹿児島大学 農学系 農林環境科学科
森林計画学 副学部長・教授 博士(農学)

近藤 博 / 中越パルプ木材株式会社 取締役原燃料部長

● 経営・事業戦略

Examples of Actions Based on ISO26000

ISO26000に

基づく取り組み事例 P.10-11

“Forward 304” Mid-Term
Three-Year Plan Progress Report

中期3ヶ年計画

「フォワード304」進捗報告 P.12-14

CSV Strategies:
Bamboo Paper, Satoyama Monogatari

CSV 戦略

「竹紙」「里山物語」 P.15-17

Financial/Non Financial Data

財務・非財務データ推移 P.18

Environmental Accounting

環境会計 P.19

● 生物多様性への取り組み

Special Contents ①

Visiting Three SATOYAMA & SATOUMI

従業員コラム 三つの里山・里海巡り P.20-23

Special Contents ②

Efforts to Preserve Biodiversity

生物多様性保全の取り組み P.24-25

● 環境への取り組み

Special Contents ③

Raw Material Procurement Efforts

原材料の調達に関する取り組み P.26-27

Promoting the Effective Use of Industrial Waste

産業廃棄物の有効利用推進 P.28

Global Warming Countermeasures

地球温暖化防止対策 P.29

Material Balance with the Production Activity

生産活動に伴う

マテリアルバランス P.30

Main Environmental Data

主要な環境データ P.31

● 安全な製品づくり

Dealing with Product Safety

製品の安全への対応 P.32-33

● 働く環境への取り組み

Creating a Work-friendly Environment
Where Individuality Can Flourish

働きやすさと個人の能力を発揮する
環境を整える取り組み P.34-35

Safety Activities Performed
by Labor and Management

労使で取り組む安全活動 P.36

● 地域への取り組み

Symbiosis with the Local Communities

地域との共生 P.37

Environmental Education

環境教育 P.38-39

● 企業統治

Talks with Stakeholders

ステークホルダーとの

対話を通して P.40-41

Corporate Governance

コーポレート・ガバナンス P.42-43

Environmental Conservation Efforts
for Sustainable Development Goals

SDGsに関する

環境保全の取り組み P.44-45

Company Profile

会社概要 P.46

Locations and Facilities

事業所一覧 P.47

中越パルプ工業グループは、“中paraしさ”を追求し、 持続可能な社会の実現に取り組み続けます。

The Chuetsu Pulp & Paper Group continues to adopt initiatives to establish a typical Chuetsu Pulp style and become a sustainable society.

——— 持続可能な社会の実現のために ———

中越パルプ工業グループは、2017年度を最終年度とした中長期成長戦略プラン「ネクストステージ50」で培った経営資源を最大限に活かしながら、いかなる情勢の変化にも対応し、リスクを吸収できるしなやかな企業グループを築くため、中期3ヶ年計画「フォワード304」の取り組みを2018年度より開始いたしました。事業領域の選択と創造により、企業価値向上の実現を基本方針として、掲げた事業戦略の取り組みを推進しております。

当社は紙パルプ製造事業を基に、原料調達ソースを活かし、未利用間伐材を主に国産材のみを燃料とする、木質バイオマス燃料発電設備によるエネルギー事業や「竹紙」と「里山物語」に代表される、環境配慮型製品の提供により、森林資源の有効利用を進め、里山保全と森林価値の向上に努めてまいりました。

新たな事業戦略におきましては、使い捨てプラスチック問題や地球温暖化などの地球規模の環境課題への取り組みとして、長年にわたり培ってきた当社の持つパルプや紙の製造技術を活用し、これまでにない新しい価値の提供を目指しております。

セルロース・ナノファイバー（CNF）は、川内工場内の第一期商業プラントの稼働により「nanoforest[®]」ブランドとして認知度を高めてまいりました。さらに、高岡工場において高機能セルロース・ナノファイバーパイロットプラントの建設計画を具体化し、新たな用途拡大に向けた取り組みを展開いたします。

また、株式会社環境経営総合研究所との合弁で設立した「中越エコプロダクツ株式会社」においては、高岡工場内に新素材「マブカ（MAPKA[®]）」シート製造工場を新設いたします。株式会社環境経営総合研究所のパウダー化技術、合成樹脂との混成技術と当社の紙製造技術の融合により、従来のプラスチックトレイの機能性・加工適性は同等に、合成樹脂の使用量を半分に以下に削減できる、他にはない製品の供給体制を整えてまいります。

このように、中越パルプ工業グループはSDGsの掲げる目標達成に向け、事業戦略の推進により“中paraしさ”を追求することで、現代社会の抱える課題解決の一翼を担い、持続可能な社会の実現の一助となるべく取り組みを続けてまいります。

代表取締役社長 **加藤 明美**



—— 再生可能な地域資源を次世代へつなぐために ——

地域と共につくる 「竹紙」から考える環境問題



近藤 博 中越パルプ木材株式会社
取締役原燃料部長

寺岡 行雄 鹿児島大学 農学系 農林環境科学科
森林計画学 副学部長・教授 博士(農学)

中越パルプ工業は鹿児島県薩摩川内に、工場を有しています。この地域で、また日本全国でも問題となっている放置竹林とタケノコ農家の存続を鑑み、竹を製紙資源として活用する取り組みを20年以上に渡り続けています。国内産の竹を使用した「竹紙」を通じて環境問題への取り組み、未来へ発展する新しい事業への期待を共に考えるために、鹿児島大学・農学系・農林環境科学科・森林計画学の寺岡行雄教授をお招きして、中越パルプ木材株式会社・取締役原燃料部長の近藤博との対談が実現しました。



チップ加工工場に集積された竹材。加工適材を出荷者が選別する

地域の要請から生まれた「竹紙」

近藤：まずは中越パルプ工業の「竹紙」誕生の歴史を振り返りましょう。川内工場のある鹿児島県は、竹林面積が日本一、タケノコ生産量が日本で第2位という地域です。この地域では古くから、タケノコが生えにくくなった古竹を伐採し、若竹を残すことによって効率良くタケノコを生産してきました。伐採した古竹は、地域で様々な用途に利用されてきましたが、1960年代以降はプラスチック製品等に押され、近年では竹材の用途がないという状況が続いていました。そのような状況の中、1998年に鹿児島県から川内工場へ、行き先を失ってしまった竹を製紙原料として利用できないだろうかとの相談があったのが竹紙の始まりです。当時、鹿児島県では、伐採した竹の行き場がないことで、タケノコ産業の衰退と、タケノコ生産林がいずれ放置竹林化してしまうことを危惧していました。中越パルプ工業は、地域からの強い要請を受け、問題解決の一助になればと竹の製紙原料利用に取り組むことになりました。

寺岡：タケノコ生産の竹林は、1ha当たり約2,500本の竹があり、1年間に500本ずつ新しい竹を生やして、5年間分の竹が合計で約2,500本となるようにしています。6年目となった古い竹を除去して、タケノコを収穫し、新しい竹を残すように毎年本数を調整します。長さが15mほどの竹を切り倒すのは大変な作業です。近藤さんからお話がありましたように、昔は竹材が農業資材や家の材料、あるいは、生活用具を作る材料でしたが近年は竹の需要が減り、竹林の中に積んでおくか燃やして処分していたのです。また、タケノコは出荷単価も安く、1本が50円から100円程度です。そのような背景もあり、高齢になった方々がタケノコ作りをあきらめるようになっていきました。結果、竹林が放置されてしまったのが現状です。鹿児島県からの申し入れをきっかけに、中越パルプ工業さんで竹材を製紙の原料にされる取り組みが始まりました。これまで出口が見えなかった竹の需要や環境問題についても、この20年間で取り組まれてこられた竹紙作りには大きな意味があると思うのです。

近藤：製紙原料として竹を利用するためには、5~40mm角という規格内のチップに加工する必要があります。現在、川内工場が利用している竹チップは、全体の2%弱と比率としては高くありません。よく誤解されるのですが、たった2%なら多少規格外でも構わないのでは、といった趣旨の竹チップ引取り相談を受けることもあります。しかしながら、たった2%だからこそ、他の98%に劣る品質は許されません。竹についても、最初にこちら側から条件や基準を明確に提示し、地元の方々にも十分に理解いただいた上で事業を進めていくことが重要でした。中越パルプ工業と地域が密接に連携し、地元チップ加工業者、その先の竹材供給者が規格を厳守するために努力を惜しまなかったことで、この取り組みが長く続いていると思っています。

寺岡：製紙工場へは砕かれた形状の製紙用竹チップで原料を入れますが、その手前にチップ加工の工程があります。タケノコ生産農家がお自身で軽トラックに2mくらいに切ったものを、積んで、持ち込まれ、チップ工場が買い取り、加工されて、製紙会社へ届くというプロセスです。持ち込み前に、例えば枯れてしまっているような竹、泥がついているような竹、そのような竹は農家さんが取り除いておられ、良質の製紙用竹チップが作れるような良い竹だけを選別して持ってこられているということで品質が守られているのでしょう。

地域の人々と考える、持続可能な仕組み

寺岡：あとは、この仕組みをどのように維持していくか。タケノコ農家の皆さんにしてみたら、これまで竹林に放置して捨てているようなものが、チップ工場に持ち込んでいけば、いくらかで買ってもらえるということが、動機づけとしてあると考えます。「どうせ、置いておくよりは、処分にもなるし、ありがたい」という気持ちになられたようです。また、地域自治体の協力もあり、市や町の竹を生産するということに対して、補助金支援があります。このような公的支援や



寺岡 行雄
Yukio Teraoka
鹿児島大学 農学系
農林環境科学科
森林計画学
副学部長・教授 博士(農学)

協力があって、初めて成り立っています。竹はいくらでも生えているように考えられがちですが、硬い竹を切り、出荷するというのは非常に大変なことです。特に、製紙の原料は重さで量られる世界です。竹は中が空洞ですから、見かけよりも重さがありません。手間も、コストもかかる仕事です。タケノコ農家さん、竹のチップ工場、行政、そして、中越パルプ工業さんのような原材料として受け入れる企業があり、初めて結果が出ていると考えます。

近藤：西日本には孟宗竹を主体とした竹林が多くありますが、どこも放置された竹林の伐採まではできたとし、伐採した竹の処理方法がなくて整備が継続的にできないといった事例が多いと聞きます。中越パルプ工業と鹿児島県の取り組みは、事業を通じて地域課題や環境問題を解決しようという試みですが、今思えば、できる範囲内でいかに細くても長く続く仕組みを、というのが関係者の原点だったような気がします。

寺岡：最終的な需要がどこにあるのか。また、経済的な支援だけ、例えば補助金などは導入としては大切ですが、それだけでは実現できません。大量の竹や資源があっても、引き受け先がない場合、需要を作ることは非常に重要ですね。中越パルプ工業さんが原料を引き受けられ、竹紙への製品化ができるということがあったからこそ、この流れができたのだと思っています。

近藤：今では鹿児島県に熊本県の一部も加わり、日本で産出される竹材の50%以上をこの工場で利用している、という規模にまで大きくなりましたが、中越パルプ工業と地域が一体となって20年余り継続的に取り組んできた成果として、分かりやすい数字ではないかと思えます。それだけ川内工場の周辺地域の竹林整備が進んだともいえるのではないのでしょうか。現在では、行政、製紙以外の他分野産業、タケノコ産業、林業、それに寺岡先生のような学識経験者にも入っていただき、竹を貴重な地元

資源と捉え、有効利用を発展させる活動も始まっています。薩摩川内市竹バイオマス産業都市協議会を産・学・官約110団体で結成し、竹の新たな用途を模索したり、新たな供給体制を検討したり、先生方には再生可能な資源として竹の適正利用量やコスト試算をしていただいたりと、多方面からアプローチを試みているところです。中越パルプ工業は紙という形で竹利用を進めてきましたが、他産業で活かせる道があれば是非一緒に取り組んでいきたいと考えていますし、これからも地域資源である竹の利活用を支えていく存在であり続けたいと思っています。

寺岡：鹿児島県では竹を紙の原料や発電所の原料あるいは建材として利用されています。他県では、竹の建材化、発電事業への使用、メンマなどの食材加工など、それぞれの地域で、需要があったものを取り上げて、資源として有効活用できるかどうか検討され、取り組んでおられるようです。孟宗竹は勝手に増えたわけではなく、元は中国から日本へ持ち込み植えたものです。ですから、竹林放置問題は原因を作った人間自身が解決することが大切な観点です。問題解決の出口を見つけるべく、仕組みを考え、行動するべきだと思うのです。そのような中で、大きな需要があることが、この持続的な製紙生産の取り組みにつながっています。また、薩摩川内市で竹バイオマス産業都市構想というものが作られて、中越パルプ工業さんの工場内ではセルロース・ナノファイバーのプラントが稼働し、新しい需要が生まれていこうと期待されています。付加価値の高いものを生み出していく取り組みが始まっているところなんです。紙の原料というよりは、より少量でも付加価値の高いものを作っていくということが、全体を動かすためにも必要ですね。例えば、燃料用のチップというものは、一番安い使い方であって、燃やす=熱量という使い方は、量的には多く使用しますが単価が安い。それを、紙の原料、ファイバーとして使う、セルロース・ナノファイバーのような原料として使う。そういった付加価値の高いものとして使用し、組み合わせることで、全体がうまく動いていく。安価な原料を大量に動かすだけでは、経済的に成り立つことも難しいのです。そこから、一部でも良いので高収益を上げるものを作ると、全体のサイクルが回せる仕組みになっています。中越パルプ工業さんの場合はバイ



薩摩川内市産竹材製の
SDGs ピンバッジ

近藤 博
Hiroshi Kondo
中越パルプ木材株式会社
取締役原燃料部長



オマス発電という良い仕組みが地域にあり、ベースには過去20年間の竹材との関わり方が経験として活かされていると思うのです。地域の様々なプレイヤーの皆さん、森林を持っておられる方、林業の仕事をしている人、木を運ぶ運送会社、チップを加工する人、そのような方がいらして、初めて成り立つ取り組みですね。だから、単にビジネスライクに、1円高い単価でこの木を買いますとか、というようなことではなく、地域と一緒に作っていく、手を取りあっていくことから動くのですね、竹紙作りも。

次世代へつなぐ地域資源

近藤：これまでの長い歴史の中で、無理をして負担が大きくなった人や組織が途中で抜けてしまっていたら、竹紙はできませんでした。様々なプレイヤーが、現在もそれぞれの立場でできることを考え、助け合い、支え合っています。竹紙は「環境と社会に貢献し、地域に愛される企業であれ」という中越パルプ工業の企業姿勢を示す象徴的な製品であり、行動成果だと思っています。

今後の竹利活用の展開を考えると、竹林は年間2割くらい伐採しても、たった1年で元の本数に戻るといって、最も循環利用が容易な再生可能資源という強みがあります。現状、木材よりもコストはかかりますが、資源としては面白くて魅力もあります。将来的には製紙原料に留まらず、様々な産業でその特性を活かせるような仕組みが広がれば、大きく発展する可能性も秘めていると考えます。製紙会社は、再生可能な資源である木材や竹を使っている産業ですが、私たち使う側も、それを供給する側も、次世代にきちんと再生可能な資源として引き継いでいく責任があります。そのためには、木材や竹産業が一過性ではなく、持続的な再生産ができるだけの事業性を永続的に維持していくことが重要です。この地域のタケノコ産業についても、担い手の高齢化や後継者不足は常に問題視されてきました。今後、タケノコと竹材の両輪で、竹関連産業が若い世代にとっても魅力ある産業、儲かる産業に発展し、全国の竹林問題に悩む方々のヒントやモチベーションとなって広がってくれることを願っています。また、脱プラスチックや、地球温暖化対策としても木材や竹を始めとする

山林資源への注目が高まっています。私たち木材産業にとっては、もちろんビジネスチャンスではありますが、再生可能な資源も、使えばなしでは再生しません。SDGs実現のためには、繰り返しになりますが、川上から川下まで持続的な事業性を維持できる仕組み、再生産が楽しくなる仕組みを作っていくことはもちろん、足元にある地域資源を無駄にしないことも重要で、竹紙にはそのヒントがいっぱい詰まっています。これからも、竹紙で培ったノウハウを財産とし、地域の方々と一体となって再生可能な資源である木材や竹資源の有効利用と再生産に取り組んでいきたいと考えます。



ISO26000に基づく 取り組み事例

Examples of Actions Based on ISO26000

中越パルプ工業グループは事業活動を通じ社会的責任を果たすため、CSRの国際的なガイドラインであるISO26000の中核主題に沿った取り組みを展開しています。下表は、国際規格ISO26000の7つの中核主題に関連する重要課題（マテリアリティ）を記載しています。

●重要課題（マテリアリティ）の特定プロセス

Step.1 課題の認識・整理

ISO26000、SDGsなどの国際的なガイドラインを考慮し、当社の課題を抽出する。

Step.2 妥当性の確認・検証

社内におけるCSRミーティングやステークホルダーとの対話などから、妥当性を確認し、課題を検証する。

Step.3 重要課題（マテリアリティ）の特定

社会環境への貢献と企業価値向上につながる活動として当社の重要課題（マテリアリティ）を特定する。

Step.4 評価指標の設定・検証

活動を通じて持続可能な社会の実現に寄与するために具体的な取り組みを設定する。

中越パルプ工業グループが取り組む重要課題（マテリアリティ）

Important Issues (Materiality) Addressed by the Chuetsu Pulp & Paper Group

	ISO26000の中核主題	重要課題（マテリアリティ）
<p>高 ステークホルダーに おける重要度</p> <p>高 事業における重要度</p>	企業統治	● コーポレート・ガバナンス
	人権・労働慣行	● 働きやすさと個人の能力を發揮する環境を整える取り組み
	環境	● 地球温暖化防止対策 ● 産業廃棄物の削減と有効利用推進 ● 環境規制値の遵守および環境管理体制の強化 ● 生物多様性保全の取り組み ● 原材料の調達に関する取り組み
	公正な事業慣行	● ステークホルダーとの対話
	消費者課題	● CSV 戦略 ● 製品の安全への対応
	コミュニティへの参画と発展	● 地域との共生

中越パルプ工業グループのバリューチェーンにおける取り組み

Chuetsu Pulp & Paper Group's Activities in the Value Chain

社会的課題	ISO 26000の中核主題	SDGsへの貢献	バリューチェーンにおける取り組み				掲載ページ
			原材料の調達	生産/製造	販売/サービス	リサイクル/廃棄物	
経営に関わる責任	企業統治	3, 11, 16, 17	コーポレート・ガバナンス ● コンプライアンスの徹底				P.18-19 P.42-43
人権・労働に関わる責任	人権・労働慣行	8, 10	働きやすさと個人の能力を發揮する環境を整える取り組み ● 年次有給休暇の取得 ● 障がい者の雇用促進 ● 健康経営への取り組み ● 労使で取り組む安全活動				P.34-35 P.36
環境に関わる責任	環境	3, 4, 6, 7, 9, 11, 12, 13, 14, 15, 16	地球温暖化防止対策 ● CO ₂ 排出量削減の取り組み		産業廃棄物の削減と有効利用推進 ● 産業廃棄物の再資源化		P.12-14 P.15-17 P.24-25 P.26-27 P.28 P.29 P.30 P.31
			環境規制値の遵守および環境管理体制の強化 ● 生産活動に伴うマテリアルバランスの強化				
			生物多様性保全の取り組み / 原材料の調達に関する取り組み ● 「中バの森」を活用 ● 合法性を遵守した原料調達 ● 国内森林資源の有効活用 ● 「竹紙」「里山物語」の製造・販売				
			中期3ヶ年計画「フォワード304」の実行				
事業取引に関わる責任	公正な事業慣行	16, 17	ステークホルダーとの対話 ● 地域モニター懇談会の開催 ● 工場見学の積極的な受入 ● 対話の機会の創出				P.40-41
お客さまへの責任	消費者課題	9, 16	CSV 戦略 ● 「竹紙」「里山物語」の製造・販売				P.15-17 P.32-33
			製品の安全への対応 ● 品質管理体制の強化 ● 製品安全の取り組み				
地域・社会への責任	コミュニティへの参画と発展	4, 11, 12, 17	地域との共生 ● 環境教育 ● 地域行事への参加				P.37 P.38-39

中期3ヶ年計画 「フォワード304」進捗報告

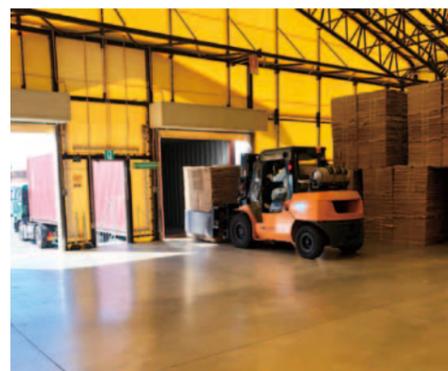
“Forward 304” Mid-Term Three-Year Plan Progress Report

紙パルプ業界を取り巻く環境は、電子媒体へのシフトや少子・高齢化による構造的問題のため、今後も一層厳しい情勢が続くことが予想されます。このような状況下、中越パルプ工業グループは、いかなる情勢の変化にも対応し、リスクを吸収できるしなやかな企業グループの基盤を築くため、中期3ヶ年計画「フォワード304」の取り組みを2018年度にスタートしました。

「フォワード304」の進捗と今後の見通し

1 グループ事業領域の再構築 Restructuring the Group Business Domain

中越パルプ工業の社名の通り、原点に立ち返りパルプ事業の拡大に取り組んできました。販売ラインナップの拡充として、高岡工場においてNUKP（針葉樹未晒パルプ）の生産を開始し、2千tを販売しました。2018年度の全パルプ販売実績は、対前年度で19千t増加しています。2019年度も引き続き中国などの旺盛な需要の獲得に向けて、着実に取り組みを進めています。



NUKPの出荷状況

2 ナノフォレスト事業展開 Nanoforest Business Development

セルロース・ナノファイバー（CNF）は、「nanoforest®」ブランドとしてさらなる用途拡大のため、各メーカーとの研究開発に取り組んでいます。ナノフォレストを特殊な加工方法で利用した卓球ラケットや、竹由来のセルロース・ナノファイバーを採用して実現した箏柱など、新しい製品が誕生しています。

また、川内工場内の第一期商業プラントに続き、高機能セルロース・ナノファイバーパイロットプラントの建設計画を具体化します。

●株式会社ダーカー

卓球ラケット 「アルバ23」

ナノフォレストを特殊な加工方法で利用し今までの常識を超えた「木材のしなり、食い込み力、反発力」を感じられるラケットが誕生。



写真提供：株式会社ダーカー

その概要は高岡工場内に約24億円を投資し、年間約60tの生産能力を持つパイロットプラントを建設、2021年の稼働を予定しています。この計画では、①疎水化CNFのパイロットプラント ②高解繊CNFの量産化設備 ③CNF100%成形体品のパイロットプラントを予定しており、高機能CNFを新たに製品ラインナップに加えることにより、「nanoforest®」商品群の幅を広げ、営業展開の強化を図ります。さらには、CNF樹脂（PDP）を用いたマスターバッチ製品の開発展開、そしてCNF樹脂展開強化設備の増強を図る計画です。

●sera-creations 箏柱

2タイプ、 2形状が誕生

「箏柱で音をカスタマイズする」という新発想。竹由来セルロース・ナノファイバーを業界で初採用。「技術」と「志」、そして何よりも「決して諦めずに工夫を重ねる」という「不屈の精神」から生まれた逸品。



写真提供：sera-creations

高機能セルロース・ナノファイバーパイロットプラント建設計画概要

生産能力：年間約60t

- ① 疎水化CNF「nanoforest-M」のパイロットプラント（2021年稼働予定）
- ② 高解繊CNFの量産化設備（2021年4月稼働予定）
- ③ CNF100%成形体品のパイロットプラント（2022年稼働予定）

設置場所：高岡工場内（富山県高岡市）

投資総額：約24億円
延床面積：約1,650㎡

3 合弁事業への参画 Joint Venture Participation

2018年7月に株式会社環境経営総合研究所と合弁で「中越エコプロダクツ株式会社」を設立しました。この事業においては、プラスチック使用量を大幅に削減する新素材「MAPKA®（マプカ）」の製造設備を富山県高岡市の高岡工場内に設置します。MAPKA®とは、株式会社環境経営総合研究所の保有する特許技術による製品で、紙のパウダーと合成樹脂を混合した世界唯一の新素材です。プラスチックゴミによる海洋汚染の原因の一つは、使い捨てプラスチック容器の廃棄にあるといわれています。世界的な使い捨てプラスチック問題の解決に貢献することを目指し、2019年10月にMAPKA®製造の新工場建設に着工しました。

MAPKA® 製造設備計画概要

食品トレイ用シート生産能力：年間12,000t

設置場所：高岡工場内（富山県高岡市）

投資総額：約35億円

敷地面積：約8,450㎡
鉄骨 2階建て建屋、延床面積6,612㎡



紙パウダー



食品トレイとして利用



写真提供：株式会社環境経営総合研究所
「MAPKA®」は株式会社環境経営総合研究所の登録商標です

当社は、地球規模の課題である海洋プラスチックゴミ問題の解決に向けたアライアンスとして、2019年1月18日に発足した「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス (CLOMA)」に参加しました。セルローズ・ナノファイバーの用途拡大のための研究開発やMAPKA®の製造と供給の取り組みについて、アライアンスの枠組みの中で情報共有を行い、当社製品の普及促進を図っていきます。



Clean Ocean Material Alliance

クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス (CLOMA) ロゴマーク

CREATING SHARED VALUE

CSV 戦略

中越パルプ工業の本業である「紙づくり」を通じて、社会問題を解決するために。地域社会と共に、ビジネスとしても専門性を活かした価値を創出します。

本業で 社会に貢献

日本の竹 100%からできた「竹紙」や、里山保全への寄付金付き国産材活用用紙「里山物語」など。他社にない独自の紙を製造販売することで国内の森林や里山、生物多様性保全などに寄与しています。

フォワード 304 事業戦略ロードマップ

	2018年度				2019年度				2020年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
パルプ事業 拡大	ラインナップ拡充 に向けて設備設置		稼働開始									
ナノフォレスト 事業 拡大・発展	高機能CNFパイロット プラント建設計画化				高機能CNFパイロットプラント建設設置 (2021年4月稼働)							
					CNF樹脂展開強化 (PDPを用いたマスターバッチ製品の開発)							
合併事業 への参画	合併会社 設立		食品トレイ事業 設備設置						稼働開始			
					断熱シート事業 検討							
不動産の 有効活用	検討				実行							

フォワード 304 連結営業利益 進捗

営業利益目標 2017年度実績対比



日本の竹、100%の紙

竹紙

たけがみ



かつて伐採された竹は、竹垣や竹箆などに利用されていましたが生活様式の変化などで需要が減り、放置竹林が隣接の森林や里山を侵食し、生物多様性を低下させる問題となっています。竹林が多い鹿児島県に立地する川内工場では、「地元の竹を紙の原料にしてほしい」という要望を受け、本来、製紙材料に不向きな竹をチップ化・製紙原料にする挑戦を1998年にスタートしました。現在では年間2万tを超える竹を活用。しなやかで、やさしい風合いの「竹紙」は印刷用紙から産業用紙まで幅広く利用されています。



生物と森を育む紙

里山物語

さとやまものがたり



「里山物語」は、森林保全や生物多様性保全に貢献できる紙として2009年に誕生しました。日本では林業の衰退に伴い森林放置が問題となっています。また、コストの問題で間伐利用されない人工林が増加しました。そこで当社では、製紙工場がある北陸と九州地区の森林から証明書付きの間伐材を購入し、活用するクレジット方式を採用。「里山物語」に里山保全活動のための寄付金をつけて販売し、里山を活用する団体と人を支援することで、人々と里山のつながりを大切にしています。

経営・事業戦略

社会の要請・期待

鹿児島県薩摩川内市は日本有数の竹林面積を誇る地域です。中越パルプ工業も1954年にこの場所で紙づくりを始めています。良質なタケノコ生産を促すために5年以上の親竹は伐採しますが、竹は燃やすか野積みで放置されていました。「伐採した竹を紙の原料に使えないか」と相談があったとき、竹は加工コストもかかり、紙の原料に適しているとはいえませんでした。「地域のために使ってみよう」と、1998年「竹紙」の取り組みが始まりました。



全国に広がる放置竹林の問題。成長が早い竹は、隣接する森林も侵食します

事業活動紹介

竹の表皮は硬く、加工は非常に困難です。紙の原料繊維だけを取り出す工場の設備で竹チップを使用した際、竹の長い表皮が混在して、機械に絡み生産が止まるトラブルもありました。しかし、挑戦をあきらめず、竹チップの品質向上や設備の調整を行い、試行錯誤の結果、紙の原料に竹を使用することに成功しました。2009年川内工場では無塩素漂白パルプ生産設備と竹100%の紙原料工程も増強し、数多くの竹紙品種を製造できるようになりました。



伐採者が竹をチップ工場へ自ら運搬、竹チップから製紙工程を経て竹紙が完成

社会への貢献と影響

「竹紙」の活動により、年間2万tもの竹を持続的に活用できる体制が出来、地域経済への貢献と竹林の整備が進みました。「竹紙」の活動は、継続することに価値があり、存在そのものにメッセージがあります。この取り組みに共感して行動される方や、課題解決のヒントにつながるなど、新しいものを生み出す可能性も秘めています。中越パルプ工業はこれからも、紙づくりという本業を通じて、社会的課題に挑戦する価値ある企業を目指してまいります。



写真左上: 封筒、紙袋 写真右: MEETS TAKEGAMI 折り紙と短冊
写真左下: 整備された竹林

受賞歴



- | | | | | | | |
|---|--|--|--|------------------------------|---------------------------|---|
| 第1回
「いきものにぎわい
企業活動コンテスト」
審査委員特別賞 | 第8回
「エコプロダクツ大賞
(エコプロダクツ部門)」
農林水産大臣賞 | 「低炭素杯2012」
審査員特別賞・最優秀
プレゼンテーション賞 | 「ソーシャルプロダクツ・
アワード2014」
ソーシャルプロダクツ賞 | 第3回
「生物多様性 日本ア
ワード」優秀賞 | 第15回
「グリーン購入大賞」
優秀賞 | 第7回
「新宿エコワングランプリ」
事業者部門
チャレンジ賞 |
|---|--|--|--|------------------------------|---------------------------|---|

経営・事業戦略

社会の要請・期待

林業の衰退と共に、手入れがされない森林放置が問題となっています。杉やヒノキなどの人工林において、良質な木材を産出するためには、枝打ちや間伐作業が不可欠です。また、雨水を蓄える水源として、山の土砂崩れを防ぐ土壌保全などの機能も、森林の荒廃が低下させてしまいます。日本の森を守る活動として、製紙会社ができることは何かを考え、中越パルプ工業は間伐材を積極利用した紙「里山物語」の仕組みを作り出しました。



事業活動紹介

製材には不向きとされ、行き場のなかった間伐材を活用することは、森林整備となる間伐促進と森林保全に役立ちます。クレジット方式では、環境に配慮し、原料となる証明書付き間伐材の割合を管理しながら、利用を促進できます。中越パルプ工業では「里山物語」の販売を通じて、四季折々の豊かな自然と生物多様性の宝庫である里山を守るため、現在までに日本の里山を有効活用している8つの団体へ活動支援を行っています。



「里山物語」の利用から生まれた社会貢献活動、里山保全を実現します

社会への貢献と影響

用紙に含まれる寄付金で、里山で活動する団体を支援し、新たな価値の創造へ。例えば、冊子やパンフレットの用紙に「里山物語」の紙を選び、使われるお客さまは、多大なコストや手間をかけずに、どなたでも「森林保全」や「生物多様性」の保全に貢献していただくことができます。そして、里山での人のつながりから、お互いの多様性を認め、自然体験や里山の恵みを活かした農業の持続など、活動の輪を広げることが可能になります。



森のようちえんビッコロ 第4回 寄付金支援により東屋完成

受賞歴



- | | | | | | | |
|---|---|--|--|--|-----------------------------|------------------------------|
| 第1回
「いきものにぎわい企業
活動コンテスト」
審査委員特別賞 | 第7回
「新宿エコワングランプリ」
事業者部門
チャレンジ賞 | 第3回
「GTF Green Challenge
AWARDS 2014」間伐・
間伐材利用コンクール
審査員特別賞 | 第1回
「日本自然保護大賞」
企業・団体リーダー部門
大賞 | 第4回
「グッドライフアワード」
実行委員会特別賞
(環境と循環部門) | 第2回
「ウッドデザイン賞
2016」入賞 | 第1回
「グリーン・オーシャン大賞」
優秀賞 |
|---|---|--|--|--|-----------------------------|------------------------------|

財務・非財務データ推移

Financial/Non Financial Data

中越パルプ工業株式会社および連結子会社

財務データ推移 | Changes in Financial Data

項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
売上高	百万円	101,141	99,927	93,882	94,824	96,716
営業利益	百万円	1,625	1,413	1,489	△ 1,242	△ 397
経常利益	百万円	1,748	1,319	1,397	△ 1,293	121
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	1,608	162	1,255	△ 5,206	721
総資産額	百万円	130,345	132,784	130,539	126,064	123,646
純資産額	百万円	51,115	53,231	54,808	49,276	48,461
自己資本比率	%	39.2	40.1	42.0	39.1	39.2
自己資本利益率	%	3.2	0.3	2.3	—	1.5
※1株当たり純利益	円	138.03	12.41	94.03	△ 389.96	54.04
※1株当たり純資産額	円	4,385.98	3,986.36	4,104.65	3,690.53	3,625.99
※1株当たり配当金	円	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00
設備投資額	百万円	10,290	11,521	5,315	4,779	4,230
減価償却費	百万円	8,616	8,855	9,021	8,836	7,979
研究開発費	百万円	400	390	416	388	397
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	8,813	9,514	13,179	7,413	6,320
投資活動によるキャッシュ・フロー	百万円	△ 7,977	△ 13,142	△ 10,577	△ 7,568	△ 3,061
財務活動によるキャッシュ・フロー	百万円	△ 5,562	4,469	△ 2,844	△ 1,451	△ 2,099

※ 2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っています
2014年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純利益金額・1株当たり純資産額・1株当たり配当金の算定を行っています

非財務データ推移 | Changes in Non Financial Data

項目	単位	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
従業員数	人	1,654	1,657	1,452	1,444	1,412
障がい者雇用率	%	1.93	1.85	2.07	2.22	2.23
労働災害発生率	—	2.39	2.38	0.00	0.78	1.60
エネルギー原単位(原油換算)	KL/t	0.714	0.717	0.697	0.709	0.746
CO ₂ 排出原単位	t/製品t	0.522	0.531	0.554	0.503	0.480

環境会計

Environmental Accounting

中越パルプ工業グループでは、環境負荷、リスクの低減を行うために環境保全に関する投資を行い、環境会計という形で検証、公開を行っています。

環境保全コスト(2018年度) | Environmental Conservation Cost (FY 2018)

(単位:百万円)

分類	主な取り組みの内容	投資額	費用額	
(1) 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)		516	5,733	
		315	5,309	
① 公害防止コスト	a. 大気汚染防止	210	3,061	
	b. 水質汚濁防止	63	1,985	
	c. 悪臭防止	37	150	
	d. 騒音防止、その他公害防止	5	113	
		201	4	
② 地球環境保全コスト	a. 省エネルギー	201	(製造費用に含む)	
	b. 国内植林	0	4	
	c. 海外植林	0	0	
		0	420	
③ 資源循環コスト	a. 古紙など資源の有効活用	0	(製造費用に含む)	
	b. 廃棄物削減・再利用・処分	0	420	
(2) 生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上流・下流コスト)		0	181	
① 容器・包装などのリサイクル	パレット・紙管の回収・再利用	0	159	
	② 容器・包装の低環境負荷化	包装紙のノーラミネート化	0	22
(3) 管理活動における環境保全コスト(管理活動のコスト)		0	81	
① 社員環境教育など	従業員監督者研修、資格取得など	0	4	
	② 環境マネジメントシステムの構築・運用・認証取得	FSC®認証、ISO14001認証審査など	0	5
	③ 環境負荷の監視・測定	ダイオキシン類分析など	0	18
	④ 環境保全対策組織人件費	環境管理組織	0	54
(4) 研究開発活動における環境保全コスト		0	129	
(5) 社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)		0	5	
① 地域住民環境活動支援など	地域社会対策、環境モニター	0	2	
	② 環境情報の公表、環境広告	環境報告書、ウェブサイト	0	3
(6) 環境損傷に対応するコスト	硫酸化物公害健康補償賦課金	0	47	
合計		516	6,176	

環境保全効果(2018年度) | Environmental Conservation Effects (FY 2018)

効果の内容	環境保全効果の指標				
	指標の分類		実績	対前年比	
(1) 事業エリア内で生じる環境保全効果(事業エリア内効果)	① 地球環境保全関係	a. 省エネルギー	消費エネルギー量	20,178百万MJ	18百万MJ 減少
			CO ₂ 排出量	335千t-CO ₂	41千t-CO ₂ 減少
		b. 植林	植林面積増加量	2,072ha	24ha 減少
			CO ₂ 固定量	28千t-CO ₂	増減なし
	② 資源循環関係	a. 薬品回収	環境負荷化学物質	—	—
			環境負荷化学物質削減	—	—
b. 節水		水使用量	73,083千m ³	1,136千m ³ 減少	
(2) 上・下流で生じる環境保全効果(上・下流効果)	① 製品リサイクル	古紙回収	古紙使用量	151千t/年	6千t/年増加
		② 容器包装リサイクル	パレット・紙管回収、再生	回収率(実績)	
	パレット			48.0%	0.6% 減少
			紙管	44.8%	10.5% 減少
(3) その他の環境保全効果	① 製品物流	物流CO ₂ 負荷抑制	製品輸送構成の見直し		
			トラック	84.8%	7.6% 減少
			コンテナ	5.8%	3.1% 増加
		船舶	9.4%	3.4% 増加	
② 社会活動	割りばし回収	割りばし回収量	4,791kg	2,191kg 減少	
	使用済み年賀はがき回収	はがき回収量	940kg	614kg 増加	

01

三つの里山・里海巡り

草野 浩志 / 上野 めぐみ / 浦田 和子



1

P.21

富山
TOYAMA

二塚
FUTATSUKA

中越パルプ工業の二塚製造部の横を流れ、富山湾へ続く庄川。上流では、里山再生事業や間伐整備が進み、森からのミネラル成分も流れ込む庄川には、鮎や岩魚など多くの生物が住んでいます。毎年、鮎のテンカラ漁を楽しみながら、後世に残したい恵み豊かな自然との関わりを考えます。



Koji Kusano



Megumi Ueno

鹿児島
KAGOSHIMA

薩摩川内
SATSUMASENDAI

中越パルプ工業の川内工場がある薩摩川内市は、海と山に囲まれた自然豊かな地域です。子どもの頃から親しんだ里山でタケノコを掘り、親子で訪れた「中パの森」で見つけた春を感じながら「いくつになっても、自然から得られることがたくさんある」と、あらためて自然や里山を守る大切さを実感しました。



2

P.22



3

P.23

富山
TOYAMA

高岡
TAKAOKA

中越パルプ工業の高岡本社、高岡工場がある富山県。雄大な立山連峰、大地の恵みを感じる田園風景、富山湾など日本有数の絶景があります。美しい自然と歴史ある街並み、地域名産の食を1日で体験できる富山マラソンに2年前に参加してから、この地域での魅力を再発見しています。



Kazuko Urada

01-1

Enjoying Nature with Traditional Tenkara Ayu Fishing

自然を楽しむ鮎のテンカラ漁



草野 浩志
Koji Kusano
中越緑化株式会社

私が住んでいる砺波市は、富山県西部に位置し、農家と田園が点々とした散居村が自慢の田舎です。特に春先の田んぼに水が張られる時期は、点在する屋敷林と田園に映る夕日がとても綺麗です。

また、岐阜県から砺波、当社二塚製造部の横を通り、富山湾に流れる総延長115kmの一級河川庄川があります。

砺波を流れる庄川には、春には桜の花見、秋には紅葉、冬には見ごたえ抜群の庄川峡遊覧があり、今や海外からの旅行者が殺到する人気のスポットにもなっています。

庄川では、地元の森林組合など、森、里山再生事業、間伐整備など森林の健全化を図り、豊かな里山、川、海が作られるような取り組みが行われています。また、上流から森のミネラル分を多く含む綺麗な水に育まれた鮎や岩魚、サクラマスなど、多くの水生生物が住みつく綺麗な川となっています。

自宅から2分ほどのところにこの庄川があることから、20年前鮎のテンカラ漁の許可を取得。鮎捕りを楽しんでいます。テンカラとは、長方形の網の下に錘、上に



捕獲した鮎

浮きがついた道具を投げ、かかった鮎を捕る漁法です。

毎年、4月頃から漁具の手入れや焼き



庄川の風景

場の整備をしたり、川の状態を見て漁場の選択をしたりと解禁日が待ち遠しい日々。

6月下旬に解禁し10月頃まで、休みの日には川の中を歩き回り、潜っては網にかかった鮎を捕るといった作業をしています。2時間ほどでくたくたになりますが、多いときで20~30匹捕れることもあり、毎年夏には、ご近所さんたちと鮎のバーベキューをしながら懇親を深め、自然の恵みに感謝しつつ美味しくいただいています。

鮎は1年で一生を終える魚です。旬は3回あり、6月から7月が若鮎の旬、8月から9月が成魚の旬、9月下旬からが落ち鮎(子持ち鮎)の旬。味わいが変わってくるため、そのときの旬が楽しめるのも醍醐味です。

これからずっと、恵み豊かな自然とのふれあいを満喫しつつ、綺麗な川や森林を後世に残せるよう、自分ができることを探しながら川と自然を楽しんでいきたいと思っています。



テンカラ漁



鮎のバーベキュー

Recollections During Spring in Satoyama

春の里山で思うこと

上野 めぐみ
Megumi Ueno
川内工場
環境管理室



親子でタケノコ掘りに挑戦

「タケノコ掘りに行こう!!」と誘われて向かったのは、川内工場から車で15分ほどの青山地区。ボランティアで山の手入れをされている方のところだ。

川内工場のある薩摩川内市は、川内川が流れ、海・山に囲まれた自然豊かな地域です。

私事です生まれも育ちも薩摩川内市、子どもの頃は川遊びやれんげ畑を駆け回ったり、山にクワガタムシを探りに行ったりと身近に自然がありました。

最近、子育てや忙しい日常に自然を身近に感じるということがほとんどなく、タケノコ掘りは久しぶりでした。また、人生2、3回の経験しかないタケノコ掘りを子どもたちの前でうまくできるか不安でしたが、掘る方向や鍬の入れ方を教わって、楽しくタケノコを掘ることができました。

また、タラの木やツブキを教えていただいたり、バッタや小さな虫を見つけたり、子どもに戻ったような素敵な時間を過ごすことができました。

小学6年生の娘は、タラの芽の天ぷらが大好きで「タラの木を初めて見た!」と喜び、タケノコ掘りのあとに移動した里山「中パの森」の東屋では、桜の花に

一生懸命スマートフォンをかざし撮影を楽しんでいました。

早速、採ったばかりのタケノコは皮を剥がして灰汁を抜き、タケノコご飯とキンピラ、煮物にしました。季節になると、タケノコは食卓によく並ぶ食材ですが、この日は自分たちで採ったタケノコで特別に美味しく感じました。

「山」というと何となくハードルが高く感じていましたが、一步踏み入れた里山は懐かしさを感じる場所でした。子どもの反応も意外と良く、見慣れない木々や虫に興味津々で、私は「いくつになっても自然から得られることはたくさんあるんだ」とあらためて思いました。

幼少期に過ごした祖父母の住まいのまわりや私の嫁ぎ先にも「山」があります。普段から「山」を管理してくれている両親の年齢も上がり、年々手入れは大変になっているはずですが、今回このような経験を通して、「里山」を守ることを大変さと、大切さを実感することができました。

これからは少しずつでも両親を手伝い、子どもたちにも自然の大切さを伝えていきたいと思います。

たまには、何も無い里山で現実離れた空気を感じるのもいいかもしれません。

タケノコ
収穫完了採りたて
タケノコ料理

Racing Across the Land Like the Wind

風を切って大地を駆け抜ける

浦田 和子
Kazuko Urada
高岡本社
経営管理本部
総務人事部



富山県は自然や歴史、文化など魅力のある県です。水深1,000mを超える富山湾から3,000m級の山々が連なる立山連峰へと一気に駆け上がる高低差4,000mの一大パノラマや、変化に富んだ四季、美味しい水や豊富な食材など、日本有数の豊かな自然と食に囲まれている地域です。

これを1日で体験できるのが、2015年の北陸新幹線開業を記念して始まった富山マラソンです。地元高岡がスタートの大変盛り上がる大会で、私も沿道で応援をしていたのですが、走ってみたいと思い2年前に出場を決意しました。

高岡スタート地点は、前田利長公が築いた高岡城の城跡である高岡古城公園近くで、日本三大大仏の一つともいわれ、美しい顔立ちから日本一の美男とも呼ばれる高岡大仏、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている山町筋の街並みを抜けて、高岡御車山祭で有名な高岡関野神社の横を通ります。そして、歴史ある建築物に見られる縦格子のデザインをモチーフとした北陸新幹線新高岡駅近くを折り返します。

中間地点の射水市エリアでは立山連峰と世界に認められた富山湾の絶景、海の恵みが豊富な富山湾の漁業の営みを感じられる漁港から、海の貴婦人



格子の街並み

といわれる帆船海王丸を見ながら、この大会でしか走ることができない新湊大橋を渡ります。こちらのエイドでは、富山米ブランド「富富富」の白海老天むすでエネルギーを補給することができます。

大地の恵みを感じるパノラマの田園風景をみながら富山市へ向かい、一級河川の神通川に架かる富山北大橋を通る途中、ビル群越しに雄大な立山連峰を望みながら富山県立美術館の横を通り、世界一綺麗ともいわれるスターバックスがある富岩運河環水公園が見えると、ゴールになります。

高岡市、射水市、富山市の地域住民の方々が沿道から温かい応援も送ってくれます。地域名産のエイドのますの寿司・ようかん・かまぼこなどが疲れた体を回復させてくれます。それらを食べる楽しみもあるマラソン大会ですので、今後も挑戦し続けたいと思います。



高岡大仏



「海の貴婦人」帆船海王丸



生物多様性保全の取り組み

中越パルプ工業は、紙・パルプの原材料である木材を利用しており、森林の恩恵を大きく受けています。社会的責任の下、社有林として「中パの森」を開設し、地域社会や行政機関と関わりながら、森の公益的機能を体感いただくと共に、森林資源・生物多様性の保全に取り組んでいきます。

“Guardian of the Groundwater” Environmental Classes Using Chuetsu Pulp & Paper’s Forests

中パの森を活用した「地下水の守り人」環境教室

富山県の推進する「とやま温暖化ストップ計画」への協力として、地球温暖化防止活動への参加を行っています。「地球温暖化防止活動推進員」の勉強会などにも参加。地球温暖化防止活動への理解を深め、小学校への環境教育や各種環境イベントへの参加を通じ、地域に根付いた地球温暖化防止活動を展開しています。



地下水の守り人の講義を受ける参加者

Presenting Beetle Grubs

カブトムシの幼虫をプレゼント

「中パの森」で育ったカブトムシを工場周辺の各保育園に配布しました。配布時には、カブトムシを始めとした森に生息する生物が住みやすい環境について、育て方の説明を通し教育を行うことで、より身近に森を感じてもらうことができました。



カブトムシの幼虫を覗き込む園児

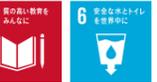
Presentation of Used Disposable Chopsticks from Elementary Schools

小学校から使用済み割りばし贈呈

小学校では割りばし回収活動に協力いただいております。回収した使用済み割りばしの贈呈式が行われました。贈呈された割りばしは、中越パルプ工業で新たな紙として生まれ変わります。また、お礼としてコピー用紙が小学校に贈呈されました。



割りばし贈呈式の様子



Learning the Importance of Public Interest Functions at Chuetsu Pulp & Paper’s Forests

「中パの森」で学ぶ、公益的機能の大切さ

- 枝打ち・間伐
木が成長しこみ合ってくると、日当たりが悪くなり、太くなることが出来なくなります。そこで、木を間引き、日光が林の中まで届くようにして、元気な森を育てます。
- 緑のダム
水源を涵養するふかふかな森の土。水を蓄える森の地面は、落ち葉などが堆積し、ふかふかです。スポンジのようになっていて、雨を蓄え、ゆっくりと時間をかけて、水を流していくことができます。この働きを「水源涵養」といいます。このため森は、「緑のダム」と呼ばれ、洪水や渇水を防ぎ、綺麗な水を育むことができます。



枝打ち・間伐の実演を見学する児童



緑のダムの話を熱心に聞く児童

葉脈の模写に取り組んだ様子



オリエンテーリングに取り組む様子



枝打ちした木を運ぶ児童



参加者全員で記念撮影



児童から届いたお礼状



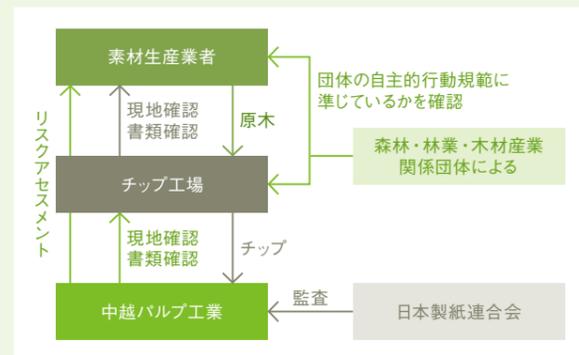
原材料の調達に関する取り組み

当社では「原材料調達指針」を制定し、合法性を遵守した持続可能な森林資源の有効利用に努めています。

Procurement of Materials under Legal Observance

合法性を遵守した原料調達

当社が原料として使用する木材チップは、当社の「原材料調達指針」に沿って、違法伐採材を排除し、伐採地域の森林経営の環境面と社会的健全性に配慮した調達を行っています。合法証明システムを構築し、調達先ごとに伐採地域、伐採した森林の形態、対象となる法令などをトレーサビリティレポートにより把握しています。さらに、2017年5月より施行された「合法伐採木材等の流通及び



利用の促進に関する法律(クリーンウッド法)に基づき、日本製紙連合会を通じてクリーンウッド法の登録実施機関への登録を行っており、当社グループ共通のDDシステムマニュアルを作成して、それに沿って全ての材に対して、リスクの最小化を図っています。この合法証明およびクリーンウッド法に基づく登録に関しては、年に1回、日本製紙連合会の監査を受け、問題のないことを確認しています。

原材料調達指針

- 1 森林資源の保護育成と地球環境への貢献**
再生可能な資源である森林を保護育成し、健全な林業経営を営んでいるソースからの調達を通じて、地球環境および地域経済への貢献を目指します。
- 2 合法性遵守と持続可能性の維持**
現地の法律や規則を遵守し、持続可能な森林経営が営まれている森林から生産された木材のみを原料として使用します。(違法伐採材は使用しません)
- 3 トレーサビリティの確保**
木材の合法性、持続可能性を確認するシステムを構築、安全な原料の調達に努めます。
- 4 森林資源の有効活用**
製材残材、間伐材、家屋解体材などの木質原料を積極的に利用し、資源の有効活用に努めます。
- 5 植林事業の積極推進**
植林事業を積極的に推進すると共に、植林木原料比率を高めていきます。
- 6 森林認証システムの積極活用および推進**
森林認証システムを積極的に活用し、高保護価値林が保護され、伝統を守る権利または市民権が侵害されていない、適切に管理された森林から生産された木材の調達に努めます。
- 7 情報の公開**
木材原料調達ソースの情報を開示します。

Use of Suitably-Managed Forestal Resources

適切に管理された森林資源の利用

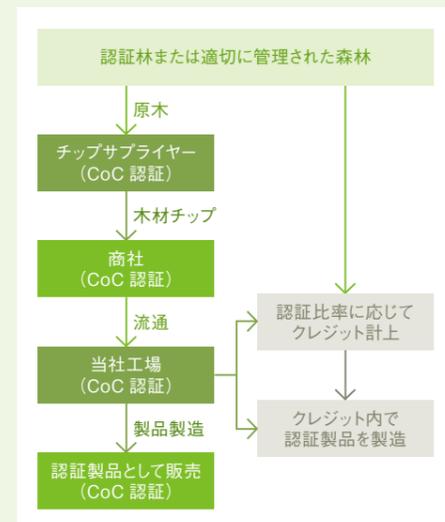
持続可能な森林資源の利用のため、当社はFSC®、PEFCの森林認証制度により、適切に管理された森林からの木材チップの調達を行っています。認証材は、木材チップの生産を行うサプライヤーから商社を介して当社が原料を調達するまで、製造・流通の全ての段階で取引先がCoC認証を取得しており、当社も第三者機関(SGS ジャパン株式会社)による審査を受けた上で、FSC®やPEFCの認証製品としての販売を行っています。

管理木材としてのリスク評価

下表の5つの木材カテゴリーには属さない、またはこのカテゴリーの木材である可能性は低いと確認された木材

1	違法に伐採された木材
2	伝統的権利および人権を侵害して伐採された木材
3	管理活動により高い保護価値(HCV)が脅かされている森林からの木材
4	人工林または森林以外の土地利用に転換されている森林からの木材
5	遺伝子組換え樹木が植えられている森林からの木材

FSC®やPEFCなどの森林認証材から製品までの流れ



Effective Use of Japan's Forestal Resources

国内森林資源の有効活用

当社は地域の特色を活かした取り組みを行い、国産材を積極的に活用して、国が目標としている国産材の供給量および利用量の拡大に貢献していきます。

● 間伐材など未利用材の調達

当社では製紙原料として証明書付き間伐材の調達を積極的に行い、林業の活性化によって健全な林業経営が保たれるよう努めています。また、川内工場で稼働している木質バイオマス発電所の燃料については、国産材を100%使用しています。中でも間伐材など未利用材90%以上の利用を目標に掲げ、実行しており、地域と一体となって森林管理さらには雇用創出に貢献する活動を行っています。

燃料として使用する間伐材など未利用材比率

目標比率	実績比率
90%以上	92.2%

● 国産竹の有効利用による森林保全

① 川内工場事例

日本一の竹林面積を持つ鹿児島県に位置している川内工場は、1998年から製紙原料として地域の国産竹の有効利用に取り組んでいます。当社独自の集荷システムを確立して、地域の竹林管理、隣接する里山の保全再生、生物多様性の保全などに役立っている他、地域経済にも貢献しています。国産竹チップの調達量は近年減少傾向にはありますが、引き続き目標に向け取り組んでいきます。

国産竹チップの調達実績(2018年度)

調達目標	調達実績
9,000 BDT/年	7,666 BDT/年

連携により行っている竹を題材とした協議会および分科会へも積極的に参加、提言するなど、放置竹林に関する諸問題の解決に取り組んでいます。

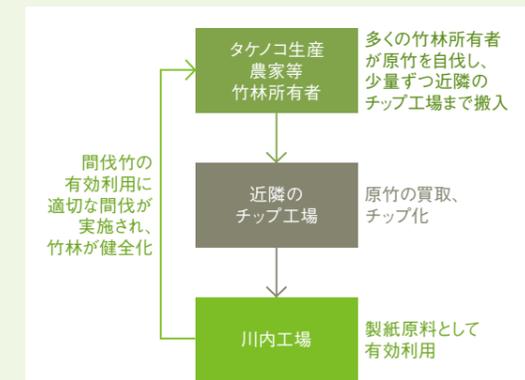
② 高岡工場事例

川内工場の地域国産竹を有効利用した「竹紙」の取り組みに加え、富山県にある高岡工場でも放置竹林の拡大による森林の公益的機能の低下防止に役立っているため、2010年から行政および地域森林組合とも連携して、森林ボランティアや地域の森林保全活動を支援する体制を作り、竹資源の有効利用促進に努めています。

証明書付き間伐材調達実績



国産竹の集荷システムの一例



川内工場



高岡工場

産業廃棄物の有効利用推進

Promoting the Effective Use of Industrial Waste

再資源化率の向上を図り、循環型社会の形成に努めます。



産業廃棄物の再資源化

Industrial Waste Recycling

中越パルプ工業グループの2018年度産業廃棄物発生量は約39.3千t/年で対前年度1.6千t/年減少しました。また、最終処分量は対前年度0.1千t減少し、有効利用率も99%となりました。最終処分していた廃棄物の循環利用を進めたことで有効利用率が増加し、最終処分量が減少しました。



ゼロエミッションの目標と推移

目標	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
全社0.5以下	5.13	1.86	0.82	0.6	0.52

廃プラスチック類の活用

Practical Use of Plastic Wastes

中越パルプ工業グループでは、廃プラスチック類の分別強化による有価物化を推進しています。排出される廃プラスチック類を塩ビ関係、フレコン、ストレッチフィルム、PPバンド、ポリ袋、PE袋等と、異物や汚れが付着した物に細かく分別することで、これまで産業廃棄物として処理してきた廃プラスチック類の11%を有価物へと転換しました。



循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰受賞

Recognized by the Minister of the Environment for Promoting Reduce, Reuse and Recycle

この度、中越パルプ工業株式会社は、「循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰」の荣誉に輝きました。富山国際会議場で開催された第13回3R推進全国大会で授賞式が行われ、地蔵繁樹取締役が秋元司環境副大臣より表彰状を授与されました。使用済み年賀はがきや使用済み割りばしの回収、「中パの森」自然体験学習会、小学校や保育園への出前環境教育、廃棄物燃料やバイオマス燃料を積極的に使用している等の取り組みが、循環型社会形成推進にふさわしい活動を展開していると評価していただき、受賞に至りました。



環境大臣表彰式

地球温暖化防止対策

Global Warming Countermeasures

中越パルプ工業グループでは、バイオマスエネルギーの積極利用による化石燃料の削減の他、省エネルギーの推進により温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。

CO₂ 排出量削減の取り組み

Efforts for Reducing CO₂ Emissions

2018年度の化石エネルギー起源CO₂排出量は、2005年度比で320千t削減、削減率は48.9%となりました。新エネルギーボイラによる廃棄物エネルギーの利用、木質燃料ボイラによる木質燃料の利用、回収ボイラによる黒液*の利用や、効率的な運転方法の実施などにより、化石エネルギー起源CO₂排出の低減に努めています。

*黒液：パルプ製造時に発生する木材中の有機分が含まれる黒色の薬液

化石エネルギー起源 CO₂ 排出量



バイオマスエネルギー構成比率

Biomass Energy Rate

バイオマスエネルギーを積極的に利用し、化石エネルギーからの転換を進めています。再生可能エネルギーの中でも黒液がエネルギー源の半分以上を占め、その他にも工場内で発生する製紙汚泥、未利用材などの木質燃料、RPFや廃タイヤなどの廃棄物エネルギーの使用により、2010年度以降、再生可能エネルギーと廃棄物エネルギーの合算で70%以上を維持しています。

化石・再生可能エネルギー・廃棄物構成比率



地球温暖化防止活動推進員としての関わり

Involvements as a Climate Change Action Officers

地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策推進法に基づき、地球温暖化防止の取り組みを進める者として行政より委託を受けています。2018年度は高岡工場にて推進委員会が開催され、当社における温室効果ガス削減の取り組み事例を発表、地球温暖化防止に向け普及・推進を図りました。



地球温暖化防止活動推進員

HUMAN CLOSE-UP 生産本部 二塚製造部 動力課 吉國 友浩

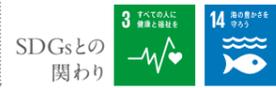
「新エネルギーの積極利用について」

生産本部 二塚製造部では、既設ボイラの老朽化に伴い、燃料費削減および二酸化炭素削減を目的とした新エネルギーボイラを2006年11月に稼働しました。新ボイラは当初、タイヤチップ、RPF、木質、石炭の4種類の燃料で操業していましたが、その後廃ゴム、廃プラ、製紙汚泥、黒部バイオマス燃料と次々と新しい燃料を追加しました。チャレンジには不安もありますが、関係部署と協力し、今後も精力的に新エネルギー活用に取り組んでいきたいと考えています。



生産活動に伴うマテリアルバランス

Material Balance with the Production Activity



森林によるCO₂固定量 国内:4,574t + 海外:23,618t = 合計:28,192t

中越パルプ工業では、生産活動に伴う環境負荷を把握し、資源消費と環境への影響を最小限にするために、さまざまな取り組みをしています。

- 使用エネルギーの大部分をパルプ製造工程から出る廃液(黒液)などの再生可能エネルギーで賄っています。
- 原材料では、古紙や竹、間伐材なども使用し、木材資源の消費節減に取り組んでいます。
- ばいじんは、主にセメント原料、土壌改良材、路盤材などにも有効利用されます。

主要な環境データ

Main Environmental Data



水質関連データ

Water Quality Data



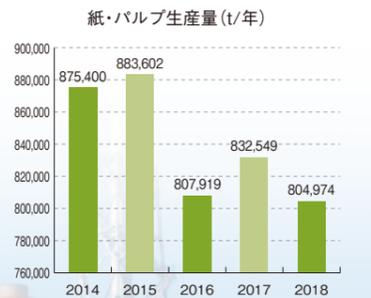
大気関連データ

Air Quality Data



産業廃棄物関連データ

Industrial Solid Waste Data



・BOD…水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したものの。数値が大きいくほど、その水質は悪いといえます
 ・SS…水中に浮遊している物質の量を表したものの。数値が大きいくほど水の濁りが多く、水底への堆積物の原因となります

・SO_x…化石燃料に含まれる硫黄が燃焼する際に発生する化合物。酸性雨の原因となります
 ・NO_x…ボイラなどで燃料を燃焼する際、空気中の窒素や燃料中の窒素が酸素と反応し発生する化合物。光化学オキシダントの原因となります

製品の安全への対応

Dealing with Product Safety

安全・安心な製品の提供を第一に考え、お客さまとの関わりを大切に、より良い製品の提供に努めています。



製品安全憲章

Product Safety Charter

お客さまに、製品を安心して使用していただくために、「製品安全憲章」を制定し製品の安全性を向上させる取り組みを進めています。

製品安全憲章

中越パルプ工業及び関連会社は品質管理体制の一層の充実をはかり、お客様に安全な製品を提供し、お客様が安心してご使用いただけるように次のことを実施していきます。

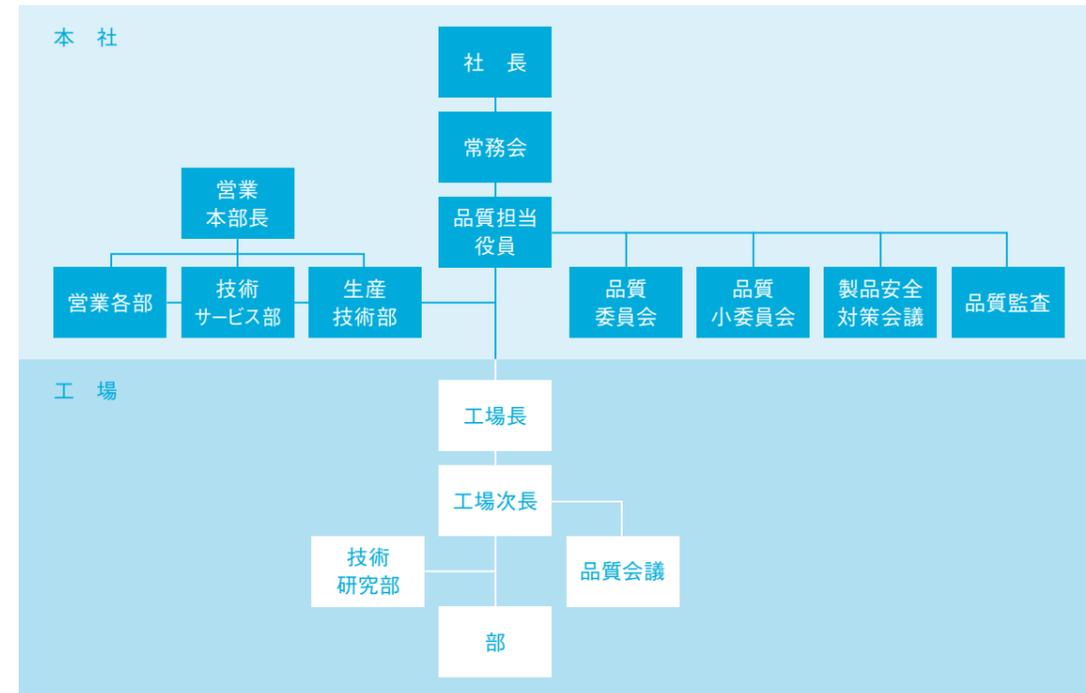
- 一、最新の技術により、安全を確認した製品を提供します。
- 一、製造工程の安定に努め、安定した安全な製品を提供します。
- 一、製品の正しい使用方法と製品の安全に関する情報を適時・適切に提供します。

品質管理体制

Quality Control System

お客さまからの情報や品質課題に迅速に対応するため、社長をトップとする品質管理体制を設け、お客さまに安心して使用していただける製品と満足していただけるサービスの提供に努めています。

中越パルプ工業 品質管理体制図



製品安全の取り組み

Product Safety Efforts

当社品質管理体制において、化審法、食品衛生法、PRTR法などの法令遵守、規格・規定に基づき、製品の安全性の検証、管理を行っています。

品質会議

製造現場でのものづくりの情報、お客さまから寄せられた情報を基に、各工場において月1回の品質会議を開催し日常の品質管理活動をチェックし、推進しています。

品質会議の主な内容

- 品質の現状と問題点
- ユーザー指摘事項の内容と原因および対策
- 重点品質項目
- 製品の安全に関する事項

品質監査

製品検査が正確に行われているか、検査結果が社内規程に適合した方法で取り扱われて出荷判定されているか、製造工程での各規程の遵守状況などについて社内監査チームにより定期的に品質監査を実施しています。

品質監査の主な内容

- 試験表監査 (バックデータとの整合性)
- 試験機管理、校正状況の確認
- クレーム対応の確認
- 品質スペックなど品質指示書の確認

食品用途製品管理規則

特に製品安全性が求められる食品用途製品については、食品用途製品管理規則を制定し、お客さまに安全な製品をお届けするよう努めています。

食品用途製品管理規則の主な内容

- 原材料の安全性確認
- 製品受注時の注意事項
- 食品用途製品の法規制項目および自主規格
- 設備衛生管理
- 製品安全保証

防虫委員会

各工場には防虫委員会を設置し、製品の衛生管理を図っています。外部コンサルタントの指導を受けながら、設備改善はもとより防虫教育を定期的実施し衛生的な製品づくりに努めています。

働きやすさと個人の能力を 発揮する環境を整える取り組み

Creating a Work-friendly Environment Where Individuality Can Flourish

中越パルプ工業グループでは、従業員一人ひとりが個々の能力を発揮し、働き甲斐と活力ある風通しの良い風土づくりに努めています。

働きやすさと個人の能力

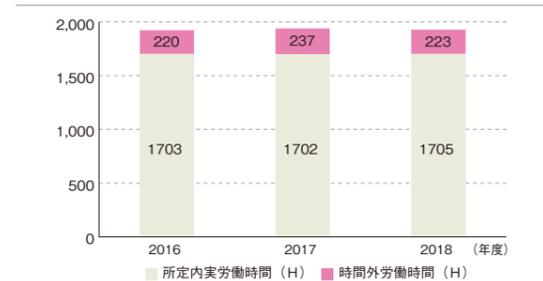
Work Friendly and Personal Ability

一日の仕事を終えて「充実した一日だった」と振り返ることができれば、社会人としてこの上ない喜びです。そのためには、しっかりと食事をとることはもちろんのこと、規則正しい生活を送り、十分な睡眠をとることが欠かせません。当社では、組合員の1カ月の時間外労働を、法定時間（45時間）を下回る35時間以下とする労使協定を労働組合と取り交わし、過重労働の防止に努めています。その結果、当社の年間総実労働時間数は、全国平均（1,998時間 2018年 経団連調べ）を下回っています。

直近3年間の年間実労働時間（組合員）推移について (H)

年度	2016	2017	2018
所定内実労働時間	1,703	1,702	1,705
時間外労働時間	220	237	223
計	1,923	1,939	1,928

年間労働時間推移



他にも、各工場では社内食堂を運営しており、食事を通じて従業員の体調管理をサポートしています。高岡工場ではカフェテリア方式を採用し、従業員各自でその日の体調や活動に応じて、主菜や副菜を自由に組み合わせ、ご飯の量も調整しながら食事をしています。

社内食堂が従業員のいこいの場となるように、より一層の充実を図っていきます。



社内食堂の様子



決まった量のご飯が自動で出てくる飯盛り機

年次有給休暇取得状況 （組合員）について

Status for the Acquisition of Annual Paid Leave (Union Members)

年次有給休暇の取得率は近年80%近くで推移しています。従業員が互いに協力しながら、交替で休むように努めており、全国平均（52.4% 2018年 厚労省調べ）を大幅に上回る取得率となりました。仕事において個人の能力を十二分に発揮するために、家族と過ごす時間を楽しむ、趣味を満喫するなどプライベートの時間を大切にすることで普段の疲れをリセットし、休日とは別に「年次有給休暇」をとることは必要不可欠です。休暇取得を奨励し、今後も休暇を取得しやすい環境づくりを進めていきます。

年休消化率 (%)

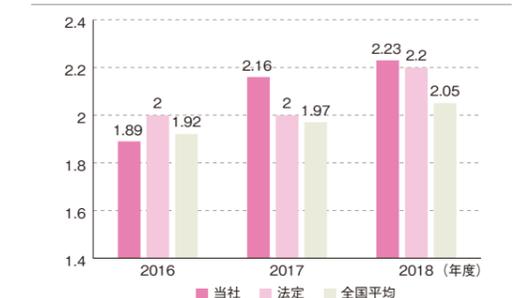


障がい者雇用状況に ついて

Employment Status of Persons with Disabilities

2018年度の障がい者雇用率は法定の雇用人数を上回る2.23%となり、法定雇用率を達成しました。2019年4月からは、社員区分転換制度を導入しており、一定の条件を満たした障がい者を所属上長が推薦して会社が認めた場合、正社員として採用しています。障がいのある方が、安心して長く働くことができるように、今後も職場環境の改善に努めていきます。

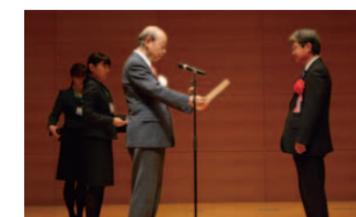
障がい者雇用率 (%)



平成30年度とやま健康経営企業大賞を受賞しました

Awarded Grand Prize as Toyama's Healthy Management Company for 2018

これまでの従業員に向けた健康づくりの取り組みが評価され、「平成30年度とやま健康経営企業大賞」を受賞しました。とやま健康経営シンポジウム2018において、石井隆一富山県知事より表彰を受けました。パネルディスカッションも催され、当社から大島忠司常務取締役がパネリストとして出席、健康経営に関する取り組みを紹介しました。



石井隆一知事より表彰を受けました



大島忠司常務取締役が取り組みを紹介

とやま健康経営企業大賞

富山県が、企業の従業員に向けた優れた健康づくりの取り組みを評価・応援し、また県内企業へ紹介・普及することにより、働く世代の生活習慣病などを予防することを目的としています。従業員の健康づくりにおいて、先導的な取り組みを推進している企業などを表彰するものです。

労使で取り組む安全活動

Safety Activities Performed by Labor and Management

中越パルプ工業グループで働く仲間たちの健康と安全を守るため、さまざまな活動を展開しています。

若年者集合安全教育

Youth Assembly's Safety Education

高岡工場では毎年内容を変えて、入社1～5年目の若年社員を対象とした、集合教育を実施しています。2月13日・19日の集合教育では、北陸電気保安協会による電気安全素養教育を実施し、電気に関する基本的なことから、感電知識に至るまでを学習。感電体感器の経験は、電気の怖さを知ってもらう良い機会になりました。



感電体感器実演風景

災害用備蓄品の確保

Securing Supplies for Disasters

異常気象による全国的な自然災害多発の現状をふまえ、有事の際に行政支援が本格化するまでの3日間を乗り切るため、備蓄品の確保が必要であると考えています。本社および各工場において、食料、飲料水、簡易トイレ、毛布など、非常用品の備蓄を行っています。



非常用品の備蓄状況

防火防災訓練

Fire and Disaster Prevention Drills

火災や地震発生を想定した、防火防災全体訓練を年2回行っています。高岡工場においては9月には製品倉庫の火災を想定した防火訓練を、3月には震度6の地震を想定した防火防災訓練を実施しました。初期消火対応を始め、通報連絡、避難、誘導、救護、警備などの自衛消防組織機能を確認しました。また、各職場ごと、さまざまな想定の下での訓練を実施して、有事の際の安全確保などに備えています。



防火防災訓練(訓練後の整列)風景

外部教育機関による安全衛生教育

Safety and Health Education by External Educational Institutions

4月17日に高岡地区、4月23日に川内地区にて安全責任者としての役割を自覚してもらうことを念頭に、工程長を対象とした労働災害原因分析・対策講習を実施しています。また、4月18日に高岡地区、4月24日に川内地区にて、管理職を対象に、使用者および履行補助者として、労働者に対する安全配慮義務についての理解を深める講習が行われました。



中央労働災害防止協会による安全講習

地域との共生

Symbiosis with the Local Communities

地域に密着した社会貢献、環境活動を積極的に行っています。

高岡七夕まつりに 薩摩川内市の竹を寄贈

Donating Satsumasendai City's Bamboo for the Takaoka Tanabata Festival

高岡市の夏の風物詩である「高岡七夕まつり」に、工場のある薩摩川内市から切り出した孟宗竹を毎年寄贈しています。長さ約12mの大竹約50本は、まつりの目玉としてメインストリートに設置されます。寄贈した竹は、祭りのあとに当社に持ち込まれ、紙の原料の一部として活用しています。高岡市ならびに薩摩川内市は、万葉集の編者とされる大伴家持が越中の国守、薩摩守を務めるなど、万葉ゆかりの地として、交流のある間柄です。当社も高岡市と薩摩川内市に生産拠点を持つ企業として、両市の交流活性化に協力しています。



夏の夜空を彩る七夕

康正産業株式会社様へ 感謝状を贈呈

Presenting a Letter of Appreciation to Kousei Industries Co., Ltd.

8月8日、割りばし回収活動にご協力いただいている康正産業株式会社様へ感謝状を贈呈しました。鹿児島県を中心にファミリーレストランなどを展開する康正産業株式会社は、森林保護の観点から県内外にある20店舗で、竹の割りばしを利用しています。2003年、竹割りばしのリサイクルについての相談をきっかけに、年平均約7t、15年間で100t以上の割りばしを搬入していただきました。川内工場で行われた贈呈式では、下川靖博川内工場長より康正産業株式会社の肥田木康正社長へ感謝状を贈呈しました。



感謝状を贈呈

HUMAN CLOSE-UP

川内工場 安全衛生管理室 岩月 秀信

「七夕への思い」

毎年、高岡七夕まつりに提供する孟宗竹の積み込み作業に参加しています。竹は、自宅がある薩摩川内市入来町の竹林から切り出されています。里山の風景に懐かしさを感じる入来町は、山に囲まれた静かな場所。住んでいる地域の子も会でも、七夕飾りを製作して飾っています。高岡七夕まつりほどの華やかさはありませんが、竹紙短冊を各家庭に配布して、願いごとを書いてもらっています。数年前の短冊に「世界が平和でありますように」とあり、毎日を平穏無事に過ごせることをありがたく思いました。



環境教育

Environmental Education

行政機関と連携し共同で楽しく環境について考え、体験できる場を提供し、自然と人との関わりについて学びます。



油処理剤の説明会

Briefing for Oil Treatment Agents

油漏洩に関する事故や環境ヒヤリを未然に防止するため、高岡工場では毎年「油処理剤講習会」を開催しています。初動対応や処理剤の種類ごとの使用方法を学びました。



油処理剤講習会風景

安全環境合同教育

Joint Instruction for a Safe Environment

構内の廃棄物保管場所に不適切なものが捨てられている事例が多いことを受け、構内出入り業者の方を対象に廃棄物廃棄ルールの周知徹底を図る目的で、高岡本社で再教育を実施しました。

参加者は、みな真剣な面持ちで講師の話に耳を傾けていました。



講習会風景

長期停止前環境教育

Environment Education Prior to Long-Term Shutdown

過去の環境事故、環境ヒヤリハットの発生状況を見ると、非定常作業時のトラブル発生率が高く、種類別では水質関係のトラブルが多く発生していることが分かりました。年2回の長期停止に入る前に排水対策会議を開催し、排水排出時間を重複させない、排水負荷の高い薬品は時間をかけて排出するなど、負荷低減対策を実施しています。その他、職場の決めごととして「やらなければならないこと、やってはいけないこと」を明確化し、全員参加で非定常作業時のトラブル撲滅に取り組んでいます。



環境教育風景

行政と連携した環境教育

Coordination of Environmental Education with the Government

高岡市役所と共同で、高岡市内の保育園を対象に「使用済み年賀はがきの回収」を行っています。「回収された年賀はがきがどのように生まれ変わるか」というテーマで、環境教育を行いました。環境教育を通して、資源の有効活用や自然の大切さに、小さい頃から慣れ親しんでほしいと思っています。



熱心に説明を聞く園児

富山県立大学 会社見学会

Students of Toyama Prefectural University Visit the Company

富山県立大学の方に工場見学に来ていただき、中越パルプ工業で行っている森林、紙、水、薬品、エネルギー、廃棄物のリサイクル活動について、各設備の運用目的を実際に目で見、学んいただきました。



会社見学風景

HUMAN CLOSE-UP

高岡本社 経営管理本部 総務人事部 本田 美咲

「環境教育に参加して感じること」

年に3回、高岡市内の保育園で行う環境教育を担当しています。木や使い終わった紙(古紙)から、紙ができることを知ってもらい、リサイクルの大切さを伝えています。また、竹紙を使用した竹とんぼ作りのワークショップも、あわせて行っています。紙を折り、色を塗り、ひねるといった単純な作業ですが、毎回園児の皆さんの表情が明るい笑顔に変わり、紙の魅力について私自身も気づかされています。自然の恵みから生まれる紙は、再生可能な環境にやさしい素材というだけでなく、私たち人間に心の豊かさも与えてくれる素晴らしい素材であることを、引き続き伝えていきたいと思っています。



ステークホルダーとの対話を通して

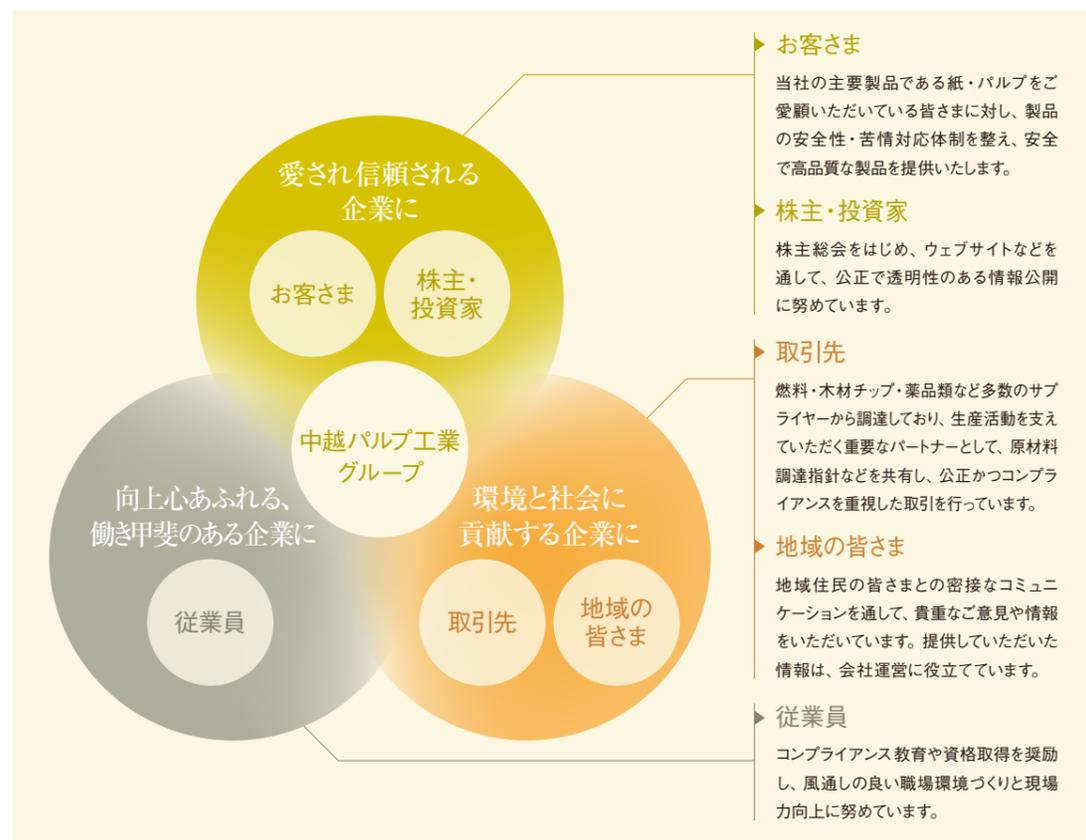
Talks with Stakeholders

積極的な対話と情報公開で、風通しの良い関係づくりに努めています。

中越パルプ工業グループの事業活動は、お客さま・地域の皆さま・従業員・取引先・株主・投資家のさまざまな立場の方々に支えられて成り立っています。中越パルプ工業グループでは、皆さまと良好なコミュニケーションを図りながら、成長していきます。

中越パルプ工業グループのステークホルダー Stakeholders of the Chuetsu Pulp Group

中越パルプ工業グループは経営理念に基づき、各ステークホルダーに対し、次のような基本姿勢で、臨んでいきます。



対話の機会

Opportunities for Conversation

対象	内容	対話の方法	頻度
お客さま	苦情対応・工場立ち入り品質会議を行い、品質要求などに対応しています。	お客さま・工場訪問 ウェブサイトによる情報発信 展示会などへの出展	随時
株主・投資家	最高経営責任者が、業績や方針、事業戦略などを説明	定期株主総会 決算説明会 ウェブサイトによる情報開示	年1回 年2回 随時
取引先	原燃料、薬品、資材調達、運搬に関わる業者への原材料調達指針の共有	委託契約に基づく相互確認 安全・環境の講習会など	契約時 年1回
地域の皆さま	工場幹部が安全・環境・製品などの取り組みについて説明 工場見学、意見交換会開催 いただいたご意見や情報は、環境保全に役立っています。	地域モニター懇談会 環境アンケート 各種社会貢献活動への参画	年1回
従業員	風通しの良い職場環境づくりに努めています。	コンプライアンスミーティング 職場安全衛生会議 工程長会議	月1回 月1回 年1回



ステークホルダーとの対話

Talks with Stakeholders

取引先や地域の方々に、当社製品のアピールや地域貢献活動などの取り組みを理解していただくために、工場をご紹介します。また、貴重なご意見もいただきながら、工場見学という場を通して、ステークホルダーの皆さまとの対話を行っています。

工場見学実施実績(2018年度) (件)

工場	顧客(取引先など)	地域(住民、学生など)
川内工場	25	14
高岡工場	36	6
二塚製造部	7	-



富山県礪波市柳瀬自治会御一行さま

近隣地域住民の方々との対話

Talks with Residents from Surrounding Regions

工場の近隣自治会へモニターを依頼し、環境に関するアンケートへの記入にご協力をいただいています。また、年1回の地域モニター懇談会では、出席者から忌憚のないご意見をいただき、モニターさまからの生の声を聞く場を設けています。ステークホルダーとの対話を通し、工場から出る音や臭気、大気など近隣住民へご迷惑がかからないよう、設備改善や環境保全に投資し、安定操業に取り組んでいきます。



地域との関わり(地域モニター懇談会)

HUMAN CLOSE-UP 高岡本社 生産本部 環境管理統括部 清水 一希

「地域モニター懇談会を通じて学んだこと」

工場周辺住民の皆さまから工場に対する疑問点や意見などをあげてもらい、対話を通じて工場の運営に対する理解と認識を深めていただくことを目的に、高岡工場では工場周辺地域の9つの自治会の代表者と、生産活動や環境などの諸問題について話しあう地域モニター懇談会を年に1回開催しています。今回初めて懇談会に参加しましたが、普段自分たちが当然と思っていることでも、相手側にとっては疑問の対象であることを知り、相互理解を深めていくことの大切さを知りました。周辺住民の方々の理解があってこそ、工場が運営されているということを心に留め、これからも業務に取り組んでいきたいと思えます。



コーポレート・ガバナンス

Corporate Governance

中越パルプ工業グループは、コーポレート・ガバナンスが有効に機能する経営体制の構築が経営の重要課題であるとの認識の下、以下のコーポレート・ガバナンス体制図を構築することで、チェック機能の強化を図り、迅速かつ透明性のある経営により企業価値の向上に努めてまいります。

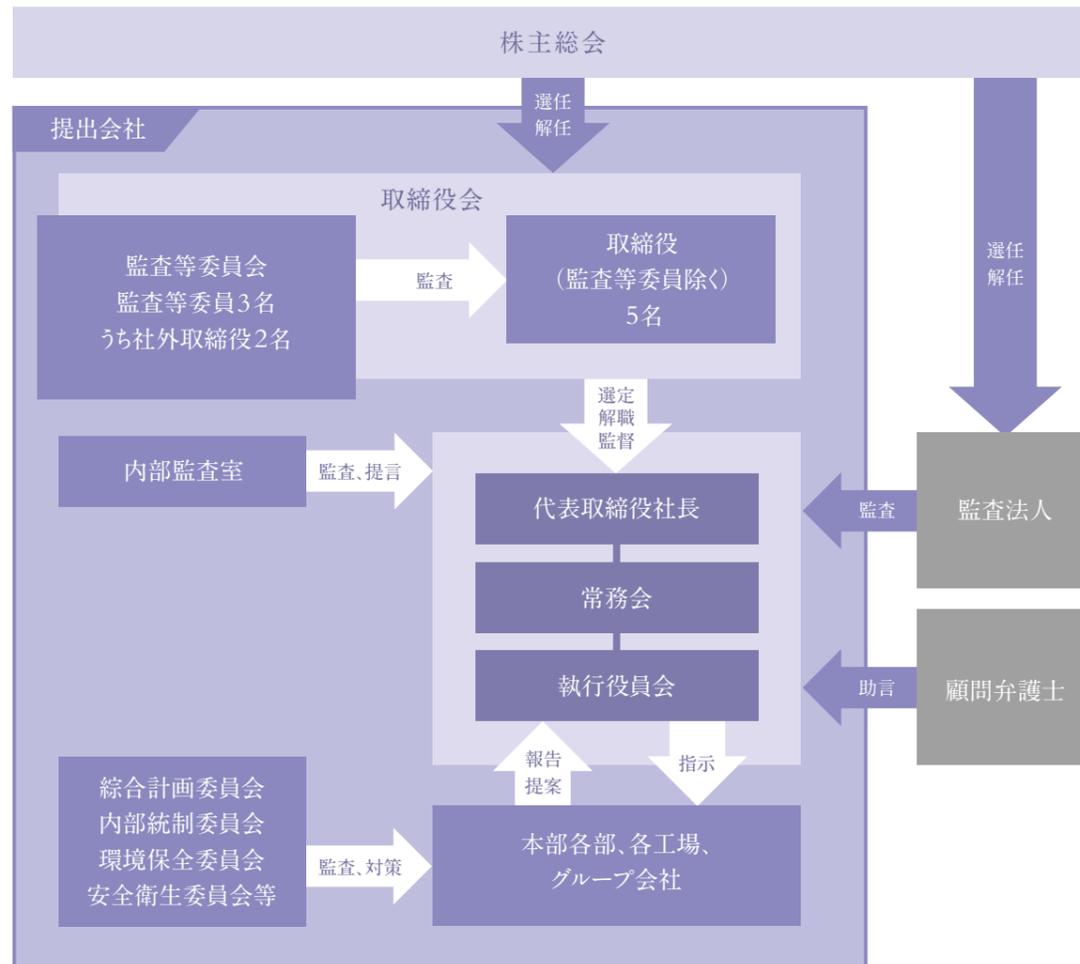
主要な会社の機関

Major Corporate Institutions

機関の名称	議長または委員長の氏名および役職名	構成員	権限および目的
取締役会	加藤 明美 代表取締役社長	取締役 8名	月次の決算および営業報告に加え、法令・定款・取締役会規程などに定められた事項について審議・決議する。
執行役員会	加藤 明美 代表取締役社長	取締役(社外取締役除く) 6名 執行役員 8名 管理部長 1名	執行役員の所管事項につき経営の推進に資するため、主要事項の業務報告の実施を通して、情報共有および連絡調整する。
常務会	加藤 明美 代表取締役社長	取締役(社外取締役除く) 6名 執行役員 6名(子会社社長専任除く) 管理部長 1名	会社全般の経営に関する事項として、取締役会への附議事項、取締役会からの委任事項などを協議する。
監査等委員会	小林 敬 取締役 (常任監査等委員)	監査等委員 3名	法令および定款に基づき、取締役会の意思決定過程および取締役の業務執行状況について監査する。

コーポレート・ガバナンス体制図

Corporate Governance Organizational Chart



2019年度 役員紹介

Introducing FY2019 Officers

取締役



代表取締役社長 兼 執行役員
開発本部常掌

加藤 明美



専務取締役 兼 執行役員
社長補佐
営業本部長

植松 久



常務取締役 兼 執行役員
経営管理本部長
内部監査室・東京事務所常掌

大島 忠司



取締役 兼 執行役員
資源対策本部長

三浦 新



取締役 兼 執行役員
生産本部長

地蔵 繁樹



取締役
常任監査等委員

小林 敬



社外取締役
監査等委員

杉島 光一



社外取締役
監査等委員

山口 敏彦

執行役員



上席執行役員
O&Cアイボリーボード株式会社
代表取締役社長

要堺 由隆



上席執行役員
三善製紙株式会社
代表取締役社長

宮田 雄二



執行役員
営業本部副本部長
兼 印刷出版用紙部長

皆吉 和彦



執行役員
開発本部長
兼 開発部長

永田 健二



執行役員
高岡工場長
兼 営業本部副本部長

磯部 勉



執行役員
営業本部副本部長
兼 営業管理部長

濱本 信之



執行役員
川内工場長
兼 営業本部副本部長

下川 靖博



執行役員
共友商事株式会社
代表取締役社長
兼 経営管理本部副本部長

森田 浩生

SDGsに関する環境保全の取り組み

Environmental Conservation Efforts for Sustainable Development Goals

2015年9月、国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、193の加盟国の全会一致で「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されSDGs（持続可能な開発目標）が掲げられました。中越パルプ工業グループは事業活動を通じ、SDGsのゴールに向けた様々な取り組みを展開しています。



SDGsは、持続可能な社会をつくることを目指し、世界が抱える問題を17の目標と169のターゲットに整理したものです。17の目標には貧困問題、気候変動や資源エネルギー、都市問題、地域間・国内格差など2030年までの達成に向けて世界が一致して取り組むべきビジョンと課題が網羅されています。

主な環境保全の取り組み一覧表

List of Main Environmental Conservation Efforts

SDGs	中越パルプ工業の主な環境保全の取り組み	関連ページ
3 すべての人に健康と福祉を	<ul style="list-style-type: none"> 有害化学物質、並びに大気、水質および土壌の汚染を生じさせない 環境規制値の遵守および環境管理体制の強化 	P.19 P.30 P.31
4 質の高い教育をみんなに	<ul style="list-style-type: none"> 適切かつ効果的な学習成果をもたらす手助けとなるような教育を行う。 出前授業、工場見学を行い、森の公益的機能や環境保全への取り組みを紹介。 	P.24-25 P.39
6 安全な水とトイレを世界中に	<ul style="list-style-type: none"> 適切な森林管理により、森林の機能を良好に維持管理し、水に関連する生態系の保護を行う。 生物多様性保全の取り組み 	P.24-25 P.26-27
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの推進 環境負荷の低いクリーンエネルギー 工場の省エネ、エコ物流の推進 	P.29

SDGs	中越パルプ工業の主な環境保全の取り組み	関連ページ
8 働きがいも経済成長も	<ul style="list-style-type: none"> 全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。 労使で取り組む安全活動 	P.36
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	<ul style="list-style-type: none"> 資源利用効率の向上とクリーン技術および環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。 木質資源の高度化利用 セルロース・ナノファイバーの開発・商品化 新技術導入 新素材 MAPKA® 	P.12-14 P.26-27 P.32-33
10 人や国の不平等をなくそう	<ul style="list-style-type: none"> 状況に関わりなく、全ての人々の能力強化および社会的な包含を促進する。 働きやすさと個人の能力を発揮する環境を整える取り組み 	P.34-35
11 住み続けられるまちづくりを	<ul style="list-style-type: none"> 大気の水質および廃棄物の管理に特別な注意を払い、環境上の悪影響を軽減する。 環境規制値の遵守および環境管理体制の強化 産業廃棄物の削減と有効利用の推進 	P.19 P.28 P.38
12 つくる責任 つかう責任	<ul style="list-style-type: none"> 古紙の利用、原料歩留まりの向上、PRTR化学物質の把握と代替 古紙利用の促進、古紙配合の適正化 大気、水質、土壌への排出削減 廃棄物の削減および有効利用の推進 ゼロエミッションの達成 	P.28 P.38
13 気候変動に具体的な対策を	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動の影響軽減 化石燃料使用量およびCO₂排出量の削減 化石燃料から再生可能エネルギー、廃棄物エネルギーへの転換を積極的に行う。 	P.29
14 海の豊かさを守ろう	<ul style="list-style-type: none"> 海洋ゴミや富栄養化を含む海洋汚染防止 環境負荷化学物質対策 	P.30 P.31
15 陸の豊かさも守ろう	<ul style="list-style-type: none"> 森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少の阻止につなげる。 国内間伐認証材の使用推進 FSC®およびPEFC認証材の活用 竹の利用促進 	P.6-9 P.15-17 P.26-27
16 平和と公正をすべての人に	<ul style="list-style-type: none"> 対応的、包摂的、参加型および代表的な意思決定を確保する。 コーポレート・ガバナンス 対話の機会の設定 	P.40-41 P.42-43
17 パートナーシップで目標を達成しよう	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを推進する。 CSR活動の推進 地域との共生 ステークホルダーとの対話 	P.18 P.37 P.40-41

※上記表は主な環境保全の取り組みに特化したターゲットを記載しています

会社概要

Company Profile

商号	中越パルプ工業株式会社 Chuetsu Pulp & Paper Co., Ltd.
東京本社所在地	東京都中央区銀座 2-10-6
高岡本社所在地	富山県高岡市米島 282
創業	1947年2月20日
代表	代表取締役社長 加藤 明美
資本金	188億64百万円(2019年3月31日現在)
主な事業内容	紙(印刷・情報用紙、包装紙、特殊加工紙、新聞用紙など)・パルプの製造販売、売電事業

■ 編集方針について

● 数値データ対象期間

本報告書は2018年度の実績を基に記載しています。
但し、一部2019年4月以降の情報も含まれます。

● 取り組み報告対象範囲

本報告書の対象範囲は、中越パルプ工業株式会社の社会・環境の取り組みです。

● 対象分野

本報告書には、中越パルプ工業株式会社の環境的側面、社会的側面、経済的側面を掲載しています。

■ ウェブサイト ▶ <http://www.chuetsu-pulp.co.jp>

写真提供者



本社
生産本部
柳澤 明



本社
開発本部
田中 裕之



川内工場
技術研究部
中村 英彦



高岡工場
原質部
久次米 智文

本書に関する
お問合せ先

中越パルプ工業株式会社 経営管理本部 総務人事部
〒933-8533 富山県高岡市米島 282
TEL. 0766-26-2401 FAX. 0766-24-0020

事業所一覧

Locations and Facilities

■ 本社

東京本社
〒104-8124
東京都中央区銀座 2-10-6 TEL 03-3544-1524

高岡本社
〒933-8533
富山県高岡市米島 282 TEL 0766-26-2401

■ 工場

川内工場
〒895-8540
鹿児島県薩摩川内市宮内町 1-26 TEL 0996-22-2211

高岡工場
〒933-8533
富山県高岡市米島 282 TEL 0766-26-2401

生産本部二塚製造部
〒933-8526
富山県高岡市二塚 3288 TEL 0766-28-6600

■ 営業支社・営業所

大阪営業支社
〒550-0001
大阪府大阪市西区土佐堀 1-3-7 肥後橋シミズビル 10階
TEL 06-6441-7151

名古屋営業所
〒460-0003
愛知県名古屋市中区錦 1-8-8 いちご錦ファーストビル 4階
TEL 052-221-9131

福岡営業所
〒812-0011
福岡県福岡市博多区博多駅前 3-19-5 博多石川ビル 6階
TEL 092-411-4962

北陸営業所
〒933-8533
富山県高岡市米島 282 TEL 0766-26-2470



■ グループ会社

- 紙・パルプ製造事業
 - 中越パルプ株式会社
 - 三善製紙株式会社
- その他の事業
 - 株式会社文運堂
 - 中越緑化株式会社
 - 中越物産株式会社
 - 中越ロジスティクス株式会社
 - 中越テクノ株式会社
 - 共友商事株式会社
 - 中越エコプロダクツ株式会社
- 持分法適用会社
 - 中越パッケージ株式会社
 - 中部紙工株式会社
 - 王子製袋株式会社
 - 王子包装(上海)有限公司
 - Japan Paper Technology (Viet Nam) Co., Ltd.
 - Japan Paper Technology Dong Nai (VN) Co., Ltd.
- その他関係会社
 - 中越パルプ木材株式会社
 - 九州紙管株式会社
 - 石川紙工株式会社
 - 有限会社南薩緑化センター
 - O&C アイボリーボード株式会社
 - O&C ファイバートレーディング株式会社
 - O&C ペーパーバッグホールディングス株式会社
 - 中央紙工株式会社
 - 株式会社楠見製袋所
 - 王子製袋(青島)有限公司
 - エヌシー共同開発株式会社
 - Acacia Afforestation Asia Co., Ltd.



高岡工場



二塚製造部



川内工場